

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

勝見泰和、糸井恵、小嶋晃義、ほか. 高齢者の慢性腰痛に対する阿是穴鍼治療法 リハビリテーション医学 2004; 41(12): 824-9. 医中誌 Web ID: 2005128701

1. 目的

高齢者の慢性腰痛に対する阿是穴鍼治療法の有効性

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (クロスオーバー) RCT (cross-over)

3. セッティング

明治鍼灸大学附属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

腰下肢痛が6か月以上持続している65歳以上の高齢者9名

5. 介入

Arm 1: T-S 群 (圧痛点鍼刺激→シャム鍼刺激) (9名)。ステンレス製ディスポーサブル鍼 (0.18×50mm) を用い、触診によって検出した圧痛点18か所以内に10分間置鍼。圧痛点刺激を週1回、3週間の無治療期間の後、シャム鍼刺激として圧痛点に鍼管をあて、実際に鍼を刺入するのと同様な手技を行ったのち、患者に鍼が刺入されていることを伝えて10分間安静とした。

Arm 2: S-T 群 (シャム鍼刺激→圧痛点鍼刺激)。刺激の期間はArm 1と同様で治療の順序を入れ替えた。

6. 主なアウトカム評価項目

腰下肢痛の程度に対するVASの測定を、治療開始前(1回)、各治療の1週間後(6回)、無治療期間終了時(2回)の計9回。Roland Morris Disability Questionnaire (RMDQ) を治療開始前(1回)、各治療期間終了時(2回)、各無治療期間終了時(2回)の計5回。

7. 主な結果

VAS、RMDQともに、圧痛点鍼刺激のほうがシャム鍼刺激と比較して改善した。

8. 結論

高齢者の慢性腰下肢痛に対して圧痛点鍼治療は有効である。

9. 鍼灸学的言及

阿是穴(圧痛点)治療の重要性について言及している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

本研究は、群内におけるクロスオーバー法を用い高齢者の腰下肢痛に対する圧痛点治療の有効性を検証しようとした論文であるが、結果の記載に関してはP値が明記されておらず、統計学的検討がなされていない。しかし、シャム鍼を用いて効果を比較した点は有意義で評価できる。シャム鍼を工夫したうえでさらなる発展が期待される。

12. Abstractor

保坂政嘉 2011.10.8